

### お産が安心してできる地域に

大野 栄光



〔質問〕安心して暮らせるまちで、安心してお産ができる地域であって欲しい。産院の減少と産婦人科の医師不足が問題となっており、市内にあった産院も閉院となった。身近にある産婦人科は市民の頼りとするところ、長く存続して欲しいと考えるが、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】お産を安心してできる地域であって欲しいというのは、誰もが願うことであると考ええる。現在、公立刈田総合病院が、出産できる体制をとっており、最大限努力をしている。今後とも市民のご理解を願いたいと考える。

【人口減少への施策について】  
〔質問〕2040年、896の自治体が消滅すると推計される。1.41人の出生率も危惧されている。当市も、消える自治体の域に入っていると言われているなか、結婚・家庭・子育ての素晴らしさを知ってもらう取り組みについて、市長の見解を伺う。  
〔答弁〕【市長】結婚、また家庭、子育てのすばらしさというのは、個人の価値観、人生観にかかわるものである。その価値観や人生観の形成は、親子関係また家族関係、友人や地域の社会の中で醸成されるものであり、行政が取り組むことができるのは、家庭教育の推進であると考ええる。

〔質問〕広島県などは、未婚者の方たちに恋愛や結婚の楽しさなどを行政が伝えているが、当市でもできないものか。

〔答弁〕【市長】家族の中でしっかりと話しをして、親として子どもに伝えることが分かる教材だと考える。何事も家庭教育が大切である。  
〔質問〕第三子以降の園児の無料化の現状について伺う。

〔答弁〕【市長】国の基準は第一子が就学前の第三子を無料化している。白石市は第一子が小学3年生まで拡大して無料化を行っている。

〔質問〕第一子を小学校6年生まで引き上げ、第三子の無料化の子育て支援はできないのか。

〔答弁〕【市長】現在の小学校3年生という基準を崩すつもりはないが、その中で、今後何ができるのかというのは検討していくべきと考ええる。

### 成人用肺炎球菌ワクチン接種について

菅野 恭子



〔質問〕厚生労働省は、高齢者の肺炎球菌による肺炎の感染予防、重症化を防ぐため、肺炎球菌ワクチンを定期予防接種の対象に追加する方向を示し、今年10月からの施行を目指し推進している。当事業費には、3割程度の地方交付税措置が予定される。

現在、本市では接種費用の一部を助成し、本人負担5千円で実施しているが、平成24年度接種率は、対象者に対して0.8%と低い。地方交付税措置と市助成分を合わせ、本人負担額の軽減を図り、接種率向上の環境を高め、市民の健康寿命の延伸に努めるべきではないか。

〔答弁〕【市長】毎年接種の高齢者インフルエンザの本人負担額は千円であり、5年で5千円になる。当ワクチン接種は5年に一度であり、妥当と考ええる。

〔質問〕昨年9月定例会での決算審査において、接種率が低いのはなぜかとの質問に、担当者は本人負担が5千円ということもありますので、という旨の答弁をしている。当ワクチン接種効果で健康寿命が伸びれば医療費削減は明確であり、ぜひとも本人負担を軽くすべきではないか。

〔答弁〕【市長】国の実施要綱等を見て、慎重に検討していきたい。【防犯灯の設置について】

〔質問〕本市における対応は年に一度、市内各所一斉に設置工事としているが、要望から実現まで一年近くを要することもある。防犯灯設置の目的から、迅速対応がその命である。『防犯灯の設置は年に一度ではなく迅速対応』に早急に改善すべきではないか。

〔答弁〕【市長】今年度からは、ぜひとも要望後迅速に設置できるように改善していきたい。

〔公園に健康遊具を〕  
〔質問〕近年、公園に中高年層が楽しみながら利用できる健康遊具を設置する自治体が増えている。国土交通省の三年ごとの公園の遊具設置状況調査では、健康遊具の設置割合が最も高くなっている。日常的に気軽に利用でき、健康維持、健康づくりが期待されることから近隣市町でも導入している。本市でも適切な公園に設置活用推進を図るべきではないか。

〔答弁〕【市長】地域の要望を踏まえながら検討していきたい。その他の質問  
【「移動式赤ちゃんの駅」導入について】